

あ と が き

現在私学は大変厳しい状況にあり、本学園もその渦中にあります。そこを脱却するには、教育の質的向上しかないと考えるに至りました。そこで、今までの本学園の教育の在り方を見つめ、教育内容を少しでも高めていくことで、「生徒のための教育」を創り出そうと、法人本部内に中等教育研究部を立ち上げることにしました。中学校、高等学校それぞれから、国語・数学の二人の部員でスタートすることができました。

今回の取り組みは基本的に学校現場の負担も考え、また現場での実践という研究の場を作るという観点で、学校で授業を持ち、残りを授業研究日としました。この研究日は、授業の準備や方法の研究、また実際に撮影した授業ビデオを紙面に細かく記録し、授業研究の基本資料とするなど充実した日々となりました。さらに、毎週定期的に、作成された資料をもとに、撮影されたビデオを見直し、部員間で、教員の一言一言、生徒の受け答えなど徹底的に分析する会が設けられ、授業研究に取り組みました。時には、星城高校の校長先生始め、副校長・学監の方々にも参加いただきました。私も幾度か授業分析に参加し、学ぶことができました。個人の能力評価をするのではなく、教員自身その教え方や、方法をきちんと見つめなおし、生徒への効果を意識する授業研究です。あっという間の一年でしたが、二人の足跡をこの資料にまとめることに致しました。

この中等教育研究部をいかに継続し、成果をどう生かし、発展させていくかがこれからの鍵です。中学校、高等学校の教育の場では、日々の中でこの授業研究の意図を理解くださり、教員一人一人が取り組んでいただきたいと思います。この二人が各学校に戻り、研究を継続されるとともに広げてほしいものだと思います。また、本部では、中等教育研究部からスタートしたこの動きを、幼稚園、中学校、高等学校、専門学校、大学、大学院、それぞれの中期計画の中でとらえ、教育の質の向上により、園児、生徒、学生に付加価値をきちんとつけられる学校としていきたいと考えています。いずれ、中等教育研究部を法人としての「教育研究所」と発展させ、学園内の各学校の教育支援を図っていくつもりでおります。

二人には一年、貴重な学びの場となったことと思います。このような学び合いが教員の資質向上のみならず、今後、日常のよりよい授業づくりの中で生かされていくことを楽しみにしています。

平成 21 年 3 月 15 日

名 古 屋 石 田 学 園
法人本部長 石 田 直 城